

# とらうべ通信

2018. 新年号  
No.86

発行所：(社)香川県助産師会 高松市春日町 1176

発行責任者：宮本 政子

☎：087-844-4131

FAX：087-844-4130

## 会長挨拶

会長 宮本 政子

新年明けましておめでとうございます。今年の干支は戌で、昔から安産祈願など助産師の仕事と深い関わりのある年ですね。これからお産を控えている方の安産や赤ちゃんの健康を願わずにられません。また、会員の皆様の今年一年が公私に渡り実り多いものとなることを祈念いたしております。

さて、助産師会の動向では昨年10月に第2回代表者会議と安全管理合同研修に参加しました。安全管理合同研修では災害時の母子への支援や近県との連携に関するものと、医療過誤などの調整を行う医療メディエーターや、対象者とのトラブル対処のための接遇研修などが組み立てられておりました。昨今は医療訴訟が多く、対象者との最初の関わり方がトラブル回避の鍵となります。医療コンフリクト（齟齬・行き違い）を防ぐためには相手の立場や感情に寄り添う事が大切で、そのためには相手の話を徹底的に聞く必要があります。医療者とサービスの受け手が良い関係を保つためには、医療従事者のコミュニケーション能力が重要という研修でしたが、この能力は助産師に必要な基本的能力です。これに関連して、昨年10月に岡山県で中国・四国地区助産師研修会が開催され、香川県の会員の方もたくさん参加していただきました。研修内容は災害支援や母子への継続ケアなど講師も素晴らしかったのですが、1日目の懇親会の様子を報告します。役員の方々のご準備にも感銘を受けましたが、ちくわ（食品）を縦笛のように使った演奏会や郷土芸能などで大変盛り上がりました。研修会というと講演などに目が向きがちですが、私たちの仕事は会員相互の連携や協力が重要です。懇親会で知らない会員同士の交流が深まり、コミュニケーション能力の獲得にある意味有効なプログラムと感じました。2年後には香川県で研修会を担当することが決まっております。近県の方々にご紹介したい特別な技能をお持ちの方がいれば是非お教え下さい。雑多な文章になりましたが今年も助産師会の活動に更なるご支援・ご協力を頂きますよう宜しくお願い致します。



## 第 21 回「いいお産の日」高松会場

高松会場実行委員長 松本 かおり

さわやかな秋晴れの天候に恵まれ、高松テルサに於いて第 21 回「いいお産の日」マタニティ&ベビーフェスが開催されました。当日は朝早くから、総勢 102 名のスタッフ（学生含む）が準備に取り掛かりましたが、思いのほか会場へ来場された方が受付開始よりも早く来られたため開始時間を 30 分前倒しで開催することとなりました。しかし、早くの開催になったにも関わらず、スタッフは各自自分の持ち場での役割をテキパキとこなし、来場されたご家族に笑顔で対応していました。昨年より始めた家族写真のブースには、開始直後よりたくさんの列ができ、71 組の素敵な家族写真を撮影することができました。その他のブースでも、ご家族、スタッフの和やかな笑顔が見られていました。メインイベントの鈴木先生の講演「子育ての？みんなで楽しくひと工夫」には妊婦さんからパパ、ママ、おばあちゃんまで幅広い世代の参加者の方々が熱心に耳を傾けておられました。先生の講演の中で、子育てをする上での大切なポイントとして、「愛情と関心を持つ」「してはいけないことを言うのではなく、していいことを伝える、いいねスタンプをたくさん押しあげる」ということが印象に残りました。

今年の参加者、137 組、350 人とたくさんのご家族に楽しんでいただけたことはスタッフ全員の協力があったことだと思います。本当にありがとうございました。子育て支援課吉田課長さんのご挨拶の言葉の中に「香川県は一番小さい県だが、子育てしやすい県、子育てに一番目が届きやすい県である」と話されていました。これからも、それぞれが自分の持ち場での役割を果たし、一緒に母子とその家族を支援していけるようがんばっていきましょう。



## 第21回 『いいお産の日』 西会場

西会場実行委員長 網野 裕美子

11月5日(日)岡田コミュニティーセンターにて、今年も香川県子育て支援課と助産師会との同日開催となりました。当日は、秋晴れの清々しい1日となり、93家族222名もの来場者をお迎えすることが出来ました。今年は特に父親の参加が多く、父親が沐浴やベビーマッサージを担当し、母親がその間にマタニティーヨガや骨盤ケアのブースに参加するという、夫婦で分担してより多くの体験をしようと今までにない参加のケースが目にとまりました。



メインイベントは、昨年高松会場で好評だった香川大学医学部小児科医小西行彦先生に「赤ちゃんの泣きを科学する」をご講演いただきました。親にとって、なぜ泣くのだろう？ どうしてあげればいいのかと「泣き」については日々悩みの種であり、メモを取りながら真剣に聞いてくださった方が多く、父親からの質問も見られました。実行委員から、日々の活動の中で「泣き」についてはよく質問される内容であり、とても興味深く自分たちも一緒に聞きたいと要望がありました。そこで初めて、メインイベント中は各コーナーを中断し、スタッフも全員一緒に参加するというスタイルを試みました。全来場者がメインイベント会場に集まったことにより一体感が生まれ、開催している私達スタッフにも学びがありとても良かったのではと思いました。参加された方々やスタッフの笑顔に接し、「いいお産の日」を妊娠・出産・子育ての情報提供や交流の場としてこれからも応援していきたいと思いました。

事故なく無事開催することが出来たこと、来て下さった方々が笑顔で帰っていただけたこと、実行委員長として感謝の気持ちで一杯です。実行委員をはじめ関わって下さいました全ての皆様、本当にありがとうございました。



